

季寄  
註解 政事月令博物鑑 三夏部 四

俳諧資料カード	
年代	文元 0-58
編者 (筆者)	
書名	政事月令博物鑑
備考	三夏部 四

(下垣内蔵)

大五  
原陸

吳市阿賀北云下國三十二郡八字  
下垣人口  
貢賦一七十九石高香  
丁737

長部目錄

印ハ夏三月也

○夏の天氣。占候。養生法等其下盡

夏時令

此部より夏三月からする時候つりゆくもの

夏日

三十

夏月

夏の霜  
三十

夏夜

三十

夏朝

三十

暑一涼

五十

夏野

五十

夏草

立夏へ夏木

立木立△極樂  
立木立△極樂  
立木立△極樂

夏柳

柳神△神うり  
柳神△神うり

立木立△極樂  
立木立△極樂  
立木立△極樂

青秦椒

七  
柚山椒

立木立△極樂  
立木立△極樂  
立木立△極樂

夏 目録

△薺 葱

△苦草

△馬齒莧

△薺

△薺

△薺

△薺

△薺

△根 芋

△芋

△芋

△芋

△海 松

△松

△松

△松

△憂生類

此部

此部

此部

△蟲

△蟲

△蟲

△蟲

△蠅 牛

△牛

△牛

△牛

△蠅

△蠅

△蠅

△蠅

△蟻

△蟻

△蟻

△蟻

△蚊

△蚊

△蚊

△蚊

△鮭

△鮭

△鮭

△鮭

△鯉 鯉

△鯉

△鯉

△鯉

△鰐 鰐

△鰐

△鰐

△鰐

△新麥

△麥

△麥

△麥

△安居

△居

△居

△居

△夏断

△断

△断

△断

夏 目録

煮冷 冷汁

麦粉

麦飯

麦芽

草物

九下 木布

汗粉

九下 汗粉

麦粉

九下 木布

汗粉

九下 汗粉

汗巾

汗手拭

汗巾

汗巾

必用

此部より夏三ヶ月の入用

必用

此部より夏三ヶ月の入用

夏日

夫未 為家

夏日

夫未

夏時令

此部より夏三ヶ月の入用

夏時令

此部より夏三ヶ月の入用

夏風

夏天氣

夏風

夏天氣

夏養生

夏天氣

夏養生

夏天氣

夏霞

夏雲

夏霞

夏雲

夏日五字對句

夫未 為家

夏日五字對句

夫未 為家

九天鑪焰暖

暖

九天鑪焰暖

暖

六月玉聲寒

寒

六月玉聲寒

寒

詩 夏日之詞

明 黄氏

詩 夏日之詞

明 黄氏

深院塵消散

散

深院塵消散

散

夢畫淹

淹

夢畫淹

淹

深院塵消散

散

夏

時令

夏二

夏月

夏の霜

新古今

頼政

底の面。さとからぬふたりの  
そよごをけみくすわう月う耶

夫木

為相

約出。碑ひの本れる。ありあて  
うをまく。う月の底。う耶  
きうの。う月の。み月

千五百番寄合

後京極摄政

靜の。まか。う月の。やく。やまと

静の。まか。う月の。やく。やまと

夫木

河上夏月

仲正

かう。そめ。う月の。やく。やまと

かう。そめ。う月の。やく。やまと

かう。そめ。う月の。やく。やまと

かう。そめ。う月の。やく。やまと

家集

夏夜曉月

定家

た。を。ね。う。と。夜。川。の。ま。れ。る。

五。あ。人。を。あ。く。う。え。せ。月。う。あ。

か。う。そ。め。う。月。の。や。く。や。ま。と。

あ。う。の。明。う。や。く。あ。と。神。ふ。隊。と。桂。

は。が。う。の。ワ。祭。め。序。よ。よ。よ。

ま。う。秋。れ。が。う。夜。を。ま。し。寒。り。め。

清。め。雲。の。つ。こ。ほ。と。み。お。ま。桂。

ま。い。明。る。夜。ふ。す。じ。く。ま。ほ。と。明。

ま。い。明。る。夜。ふ。す。じ。く。ま。ほ。と。明。

詩

七字對句

詩壁

涼月照枕欹窓倦

李白

水偏清

澄泉繞石泛觴遲

李白

足涼風

山徑晚雲攏獮絪

李白

松下涼

詩

唐詩選

李太白

月照平砂夏夜霜

白樂天

霜

詩

詩選

出

詩

詩壁

詩壁

夏 時令

月三

水門涼月桂漁竿

月三ツツリサホニウツル

スツキスズ

孤月涼

夏曉夜の明ととつり

△續後撰

定家

ぬれかりゆつもよれをすあ  
れのまにも似ぬ未よれりき

夜明とも明て後云

夏朝夜明とも明て後云

△玉葉

雅有

まめらかにほとの草へうびよくして  
あくすきある叶をひくわ

くそと浮きねあけ乃のを

夫木夏朝

△玉葉

為家

夏をあそみあそびしりぞと  
いとこと浮きねあけ乃のを

夫木入道撰政

夏夕△夏暮

△玉葉

俊頼

かう火の光も涼△夕やのを

六百番哥合後京極根政

うづねの夏ようされよめりそ

ふやくます一處うれそも

△詞考す涼△。かとかくすれへ。夜

のぐと火蚊をうす。風涼△。やと

らす極も夏とれり。黄とびよ。

月ものくるの蚊の声。厚すうは

△俳意達秋の聲ぞは愁氣の起り△其角  
身は秋のさすもあすゞは秋の聲一秋

絶矣へふかすよ身の立處を一昂

詩夏夜五字對句

簾涼清露夜△山露侵衣潤

△テハスレサイロノヨサウタヒモトキモトヒク

琴響碧天秋江風捲簾涼

△カモナキソラコトヒク

夏 時令

夏ノ四

池邊命海憐風月

塞翠幃

浦口回船惜芰荷

水亭開

ホニウメクネコモトオミテラカヨ

スイネイカニ

詩 夏夜之詞

明 楊慎

煙水魚鱗冷簾文博山鬼

スミトヨロ

篆罋鍾薰魚波火雲

月ニ對レ

坐愛金波洗火雲

一テ涼氣ヲ

オホヘヒヤ、カナル波モ日ギリ雲ヲ

アラヒサマスカトオモハル、ト

夏山

亀山百首 予雄

立ふのあきまに本法不當りとあそ

連文少ては思へ深山を紹色

俳夏山や昔い急げとおとくへ

島山惠

行様じけも立ふの筆車思賈

シテモトモハシケル

詩 夏山五字對句

詩健

山樹含斜日秀木涵秀色

ヨヌキシラ山ノタケ

幽谿鹿過苔還靜

戛峯出奇雲

池風涼早涼

戛峯出奇雲

深樹雲來鳥不知

戛峯出奇雲

△夏野

（辛）龍ノ殿 為尹

まのあらまづまの小町をよし里

詞みのむ。かの。又月あ。夏。夏ま。

とこえ。御涼。かの。風涼。し。始少

能。草の苗。と。ひ。夏時。ト。一井

達。渺。く。め。お。新

わ。夏。事。ト。紹。巴。夏。川。新。

涼。さ。秋。や。か。ひ。て。和。瀬。川。

う。河。母。の。秋。の。下。か。す。右。家。

夏 時令 夏ノ立

能川のあや梅はうへたる川夏暑  
夏川のあらすじあらすじ本多源が重五

又暑一涼一暑氣とくわ  
月よりうへとくいとくわ

又同一事一涼一奇連  
俳へ六月の部九三十日も出を

夏草 (新古今) 藤原元真  
夏草 玉叶集

玉叶のひめくへもむきよ斗  
玉叶のひめくへもむきよ斗

かど山の往来。翁おけま野  
かど山の往来。翁おけま野

かど山の往来。翁おけま野  
かど山の往来。翁おけま野

かど山の往来。翁おけま野  
かど山の往来。翁おけま野

院 玉葉集

かど山の往来。翁おけま野  
かど山の往来。翁おけま野

夏木 (夏木立) 若葉紅葉。結  
夏木 若葉△嬢葉ゆ一のじ

てあくくうりうちとくう (秋  
拂 曙 拂 清賞) 緑樹溪邊合

拂 曙 拂 清賞) 緑樹溪邊合  
詩 小七字對句 詩碑

漠々水田飛白鷺 (日月昏  
漠々水田飛白鷺 (日月昏)

夏

草木

夏ノ六

陰々夏木轉黃鸝

僧院深

斜陽映閣山當水

樹松雲

微綠含風樹滿天

水殿開

綠樹重陰蓋四隣青苔日厚

寺

自無塵

夏木立クロミシグリテクハ

科

頭箕踞長松下白眼看他世上

人

心合タ人ノ外ハ交ラ

人ノ下ニ我ニニ居ラ

夏柳葉柳

唐王昌齡

新勒

重政

林ふの林をねもきあうほく

詩夏木之詞

人ノ松ノ下ニ我ニニ居ラ

非林聚ハ虫食ハキムハ置

水殿開

青秦椒倉谷より出るるもの

寺

自無塵

夏木立クロミシグリテクハ

山椒ハしじてつる時の妙術一灰を

僧院深

科

甜ふべと又男かくば女の味あ女

院深

人ノ松ノ下ニ我ニニ居ラ

非朝倉や本代丸つぶのま山椒慶友

樹松雲

人ノ下ニ我ニニ居ラ

柚山椒所々稀ふあり枝葉

水殿開

寺

自無塵

夏木立クロミシグリテクハ

細花ふらふら実ハ綠豆角ぎ

僧院深

人ノ松ノ下ニ我ニニ居ラ

人ノ下ニ我ニニ居ラ

春葱すう初生針のふく

樹松雲

人ノ下ニ我ニニ居ラ

人ノ下ニ我ニニ居ラ

夏

草木

夏ノ七

# 馬上莧覓

鬱、韓草。薺松草。金非蘆。和名、草。

相、た。ま、う、さ、く、妹う、う、馬き、左  
妙術、こう、う、ち、く、妹う、う、馬き、左

置、え、ハ馬車其、く、き、地膚  
家、か、入、す、と、づ、苦草、コ、う、ふ

ハ、と、う、く、人、ト、路、春、う、え  
七、月、よ、花、う、く、路、春、う、え

斐、馬、水、木蓼を、う、播州  
津田穗蓼と出、そ、う、蓼、コ、う、る  
年中穗あ、う、と、づ、蓼、コ、う、る

あり、りの、う、て、く、よ、う、莖  
の、成長、ト、う、う、り、の、枝、と、す  
根、芊、和名、い、も、か、く、一、云、へ、り

萐、嫩莖末、と、兼、あ、う、う、物、と  
草、菜、稚莖と、い、穢、の、長、ど

ふ、者、と、絲、莖、と、い、秋、よ、う、  
老、う、う、り、の、と、葵、莖、と、名、づ、く

海、松、水松、狀、ら、松、の、ま、ぐ  
△、葉、下、落、る、一、食、用、と、寺

連、來、ひ、は、の、薑、風、小、う、れ、し、る、の  
ト、う、く、く、流、あ、の、や、北、里、定、家

△、葉、下、落、る、一、食、用、と、寺  
ト、う、く、く、流、あ、の、や、北、里、定、家

蚊、異名、白鳥、暑蟲。○唐土嶺  
南、蚊子木、有、葉、冬、青、の、如

く、實、枇杷、の、じ、熟、そ、る、時、ハ  
蚊、出、と、う、う、の、又、塞、北、蚊、母

草、あ、う、葉、の、中、小、血、蟲、あ、う、  
此、む、ト、化、して、蚊、と、う、と、づ、う、  
△、又、江、東、蚊、安、鳥、う、蚊、と、虫、と、云

△、長、あ、く、蚊、と、う、と、づ、う、  
蟲、實、

# 夏生類

此部、か、夏、三、月、あ、る、  
季、の、つ、こ、物、と、み、つ、む

# 水草の花

△、あ、き、う、絹、水、ま、り、花、の、名、外、宗、祇  
能、あ、ま、ま、等、や、等、が、波、乃、も、心、計

# 蚊

△、南、蚊子木、有、葉、冬、青、の、如  
く、實、枇杷、の、じ、熟、そ、る、時、ハ  
蚊、出、と、う、う、の、又、塞、北、蚊、母

# 草

△、蚊、あ、う、葉、の、中、小、血、蟲、あ、う、  
此、む、ト、化、して、蚊、と、う、と、づ、う、  
△、又、江、東、蚊、安、鳥、う、蚊、と、虫、と、云

# 蝶

△、長、あ、く、蚊、と、う、と、づ、う、  
蟲、實、

夏

生類

夏夕ノハ

因と煙や廢墟如夜のさへ云甚角  
狂ほみあるもあらんとも生ふり  
色りかや。たゞやくよべき宗明

詩 蛙之詞 明 陳咸

白鳥向炎時嘗々應苦饑  
カクレテウヘ進身因暮夜得志入  
簾帷一夜ハ已カ時ヲ得タリトシ  
嚙吸吾方困飛颺汝自嬉ハ汝

風一朝至倏忽竟安之 今ニ  
何處へか迷シトナリ

蚊遣火 ④秦 傀頼

ありての煙ふきとひふう耶  
りのひけりとひふう耶  
詞形を竹けり。燒る事ア。夜か  
く。主よ。アホに蚊の夢もじ

うさと。ひせふ。煙。藻の高。聲の  
聲遠き。ふびく。き。びとし。而  
せた。夕白の。

蝶數を少やかつる方の巣を銷く。其角  
狂蚊や。又ハ巨燧の内か。則ち  
屋づく。又ハ内のすぐ。又。ハク。又。架柳

蚊柱 蚊の多く集ま云。非。蚊  
柱。柱は蔓の皮持かる。其角

蝶。蝶子。蝶子。山中。非。猿猿の  
彦。蝶子。かくれて。さへ。さへ。台澤

蜂。蜂と。大者あり。状が。が。乃  
ど。大者。一尺。又。あ。ふ。

蛩。蛩。詠形や。私。又。蛩  
。老翁。老翁。朝。う。も。老翁。

蛩。新蛩。山蛩。流蛩。異名。丹  
これ。大。此の。もの。か。く。か。く。痛。る。  
れ。や。大。此。の。もの。宏。る。道。明

蛩。鳥。復光。霄燭。丹良。

長

生類

夏ノ九

暁夜燐。夜半螢、熠燿。

夫木

知家

チキの初風がやうやくまことに  
こねまをうへぬむまくのほゆ

宝治首首 水邊螢 賴氏

えりけがこの下へきいじの  
みづれうつよとふわするト

家集

海辺螢

清浦

えぬ風ふるひくのまはせをめりま  
えくまぬあひやうろううけう

夫木

樹ト螢

隆祐

ととい河ヶをもととくをみ  
くく秋たまえむりにうけ

夫木

猿螢

俊頼

あらひ山やうむけのあくへそ  
たゞりやふのことうへすもん

家集

螢火乱風

仲正

風すいうちある風ふゑあと  
玉のひつゝよりの夜むーと

長冬寄合

染河螢

経信

まうう火の宿るまうとゑむ  
そあうひとくわうかうくまう

同

行路螢

経信

れくれぬはうすくぬよひあ  
まくひやせぬしやうゆか

夫木

螢火透簾

寂蓮

ますされふせむのみしりと  
おりひあうともれむまうる

後拾

沢螢

公雄

あきらひあうともれ澤乃

玉葉

叢間螢

左大臣

吹きまゐいく沢のまれるふ  
くふきぬあやまつたらん

夏

生類

夏ノ十

夫木

江蟹

家長

かゝとまくらぬるにし小舟を飛ぐる  
アラミのわくねそせきひゆく

夫木

葵蟹

光俊

日づれを神の髪をゆくやく  
こりぐれいのやくやあく

拾玉

寅火達廉

慈鎮

朝をくほくと名のすむうけみ  
まふかまくのをとうけとう

詞

新てくにひう。りゆう。せり  
あいだ。きくはすくね。けくひ

ううき。月日ふきくう。曉うけ

ううき。夕ゆく底もくにえのる。

月みづく。夜涼くひゆる。うく

の雪。うひの雪。夜

をくとりゆる。きを井いが。きのみ

上りそくぬべく。雨あいひとく

音曲

新報せん。あいまよ。

本法。草きうとう。まねすゞ。

草まなみはきうる。まかとびの新報  
草まなみはきうる。水草あまかみあ  
まかとびふくとせんぶ。まきくき  
芦あらびすゞく。芦の奈風  
まくろく。芦るみみかびく。

尾もいきの神すゞる。まくろの

行赤のまふ風ふくうく。美竹の

赤とくりゆう。波芽あまもぢふすゞく。

風ふくうく。末奈ひとゞる。玉か

ひとゞく。ううく。なままくひとゞる。谷

あくろたのふをくじて。谷川答

とも野豊ちが彦。サウのあ。友

孝ひらきと海辺浦太人のまう火

火まくよ。波をかくうく。川川

柳。あち。うそくま。まくゆ

まくゆ。まくゆ。まくゆ。まくゆ。

波をかくうく。まくゆ。まくゆ。

波をかくうく。まくゆ。まくゆ。

まくゆ。まくゆ。まくゆ。まくゆ。

まくゆ。まくゆ。まくゆ。まくゆ。

すふもてくらは。竹灯・初秋・秋夜・冬  
秋の氣・葉のする音をも。まよひかたのまわ  
みこゑられてゑよへ事すべしとぞ。

連・就寝してそぞり流るふ宗養  
角・よのみれあをそむきうる昌察  
相・川瀬やあは二きのやうる極其角  
君・涼床生を筆の墨乃て泥垢の言水  
迷・ほのほく拂ひやうる外貞恕  
糸・みをよせとて夜とよきう邪流水  
糸・糸ひ附やるふあすろかゝる書蛾  
狂・石底をつら本ととばやうる  
夜・うけあれぞこれひどくもへ由已  
曉・螢あづる・すゞ知る螢を  
考・あくもうのへ明ぐすのそし・卓在  
詩・蟹五字對句

江海呼窮鳥・鳥從烟樹宿  
詩書問聚螢・螢傍冰軒飛

詩健

コウカイヨビキウテ  
トリナキワタル  
スイヘシトホタル

水調揚荅歌九曲・照前流  
江邊螢火入燕巢・水上多  
荒簷數蝶懸蜘蛛網・弄琴畫  
空屋孤螢入燕巢・寄水流  
詩螢火之詞 唐 杜甫

幸因膏草出敢近大陽  
日光近ツクハナラヌグ 未  
足臨書卷時能點客衣  
人ノ衣服ニチラノトスルグ  
隨風障幕小帶雨傍林微  
風雨ニシタガニチラメキモ  
カフモトカクモサキモノグ 十月  
清霜重飄零何處歸 霜ノ  
ヤラシヌグ  
頃ニハイツクヘ桂  
ヤラシヌグ

夏

全

唐李嘉祐

夏十二

映水光難定凌虛體自輕  
水面二色光一處  
二定メ難ク虛ヲ凌ギ高クトビ  
ユクワノ体自然トカロレ

夜風吹不滅秋

露洗還明火滅ヘズ夜露ニ  
却テ明光ヲ倍ス向燭仍藏

焰投書更有情火ニムカヘバ

影ノ簷クチヘ搘光ナケレトモ

流亂景來此傍簷櫺ニソフテウツルナリ

倚中條一出テゼシヲ子リテラル夜

深雨絕松堂靜一點山螢照

故國無心渡海潮老禪方丈

寂寞夜アメヤニ禪室ヘテラシ

晋ノ車胤ハ

事集金瓶書博覽多識

ニシテ書ヲ讀トヲ好ム家貧

シテ常ニ油ヲ得ルヲ得ズ

夏ノ夜當ヲ集メテ箱ノ囊

ニ入レ盛リテ呂ヲ照シテ讀テ

ルト為先却矢務成子當

ナリ火丸ヲ製ス

戰フテ圍マレナルキ矢ノ來

ハ爾ノ如クナリシカ劉子南カ

馬ヨリ五六尺バカリニナレバ其

矢地ニ墜テ子南ニ中ラズ傷

ナカリシ故虧ノ兵モフシキニ思ヒ神ナリトシテカコミヲ解

トナリ去リシ金火丸一名冠將丸

モ名ヅク當火魁前羽疾藜各一雄黃雌黃又武威丸ト

兩

詩

全

唐李嘉祐

夏十二

夏

生類

夏ノ十三

礪石火燒 鐵鐘柄入鐵處  
燒焦兩半 共二未ト為シ雞子キヨミ 黃丹

雄雞一冠一具ヲ以テ和シ搗フ千  
下。丸シテ杏仁ノ如ク三角ニシテ  
帶<sup>モツケ</sup>テ從軍腰中ニ繫<sup>カフ</sup>レハ五  
絆囊<sup>モツカケ</sup>ニ土丸ヲ盛テ左ノ臂ニ

兵白刃ヲ辟<sup>ク</sup>家戶ノ上ニ掛<sup>ク</sup>  
ヲケバ盜賊ヲ辟<sup>ク</sup>又能ク疾

病惡氣百鬼虎狼<sup>アマ</sup> 蜂<sup>アマ</sup> 蟻<sup>アマ</sup> 諸毒ヲ治ス

江州石山寺小<sup>アマ</sup>此谷の螢常  
の螢火<sup>アマ</sup>倍<sup>アマ</sup>と毎年<sup>ホウ</sup>五月  
廿後五日夏至<sup>アマ</sup>の朝の後五日に  
至<sup>アマ</sup>十五日の間を盛りとす北へ

橋をかざり東へ川をかざりて  
曾て外小あく<sup>アマ</sup>時歲過る時  
ハ宇治川<sup>アマ</sup>又至る此所<sup>アマ</sup>ハ夏至小  
暑<sup>六月</sup>の間を盛りとす然共<sup>アマ</sup>共

瀬田の多<sup>アマ</sup>と小あく<sup>アマ</sup>俗云<sup>セニケハ</sup>  
賴政の亡魂化<sup>アマ</sup>して成<sup>カム</sup>試合

法<sup>ホウ</sup> 蛍火虫<sup>アマ</sup> 百枚雲母石<sup>アマ</sup> 二枚共<sup>アマ</sup> 有<sup>アマ</sup> 礼記<sup>セニケハ</sup> 仙書<sup>セニケハ</sup>

草化成<sup>アマ</sup> 研リ未<sup>アマ</sup>是を筆<sup>アマ</sup>に<sup>アマ</sup>  
モ<sup>アマ</sup>何<sup>アマ</sup>てもひづ<sup>アマ</sup>と現<sup>アマ</sup>さんと  
思<sup>アマ</sup>画<sup>アマ</sup>の上<sup>アマ</sup>操<sup>アマ</sup>るヘ<sup>アマ</sup>一次す

正月十一月の内日<sup>アマ</sup>の晚<sup>アマ</sup>お<sup>アマ</sup>  
ト現<sup>アマ</sup>年十二次<sup>アマ</sup>年<sup>アマ</sup>一年の間光<sup>アマ</sup>者  
子<sup>アマ</sup>此虫化<sup>アマ</sup>して蚊<sup>アマ</sup>とあり<sup>アマ</sup>  
名<sup>アマ</sup>む<sup>アマ</sup>名<sup>アマ</sup>之<sup>アマ</sup>蟲牛<sup>アマ</sup>の壳<sup>アマ</sup>ス<sup>アマ</sup>ま  
牛<sup>アマ</sup>。蠅<sup>アマ</sup>蠅<sup>アマ</sup>の<sup>アマ</sup>貰<sup>アマ</sup>え<sup>アマ</sup>売<sup>アマ</sup>と<sup>アマ</sup>て<sup>アマ</sup>  
行<sup>アマ</sup>心<sup>アマ</sup>。蠅<sup>アマ</sup>蠅<sup>アマ</sup>壳<sup>アマ</sup>と<sup>アマ</sup>ひふの<sup>アマ</sup>如<sup>アマ</sup>く  
と<sup>アマ</sup>ひふてな<sup>アマ</sup>う<sup>アマ</sup>あ<sup>アマ</sup>くと<sup>アマ</sup>よ。山蠅<sup>アマ</sup>  
ひふ<sup>アマ</sup>う<sup>アマ</sup>尺余<sup>アマ</sup>う<sup>アマ</sup>の<sup>アマ</sup>う<sup>アマ</sup>  
蠅<sup>アマ</sup>蠅<sup>アマ</sup>も<sup>アマ</sup>売<sup>アマ</sup>と<sup>アマ</sup>て<sup>アマ</sup>れぞく<sup>アマ</sup>や<sup>アマ</sup>

牛のぶくもあつてのすう。土牛のほのむゆふじう

**夫木** **寂蓮**

牛の子ふねまよるみをのかうす  
角あれひそ身そひたのそ

**蝶牛** **附蝶 土蝶 鼻涕蟲**

蝶牛角うぢよほけに蟲  
白痴や角骨さずがくつア鼻涕

**蛾子象** **蛾子象** **附蛾子 訥子**

蛾子象をいづかうア詫子  
蛾子象をいづかうア詫子

**蝶蛹** **附蝶蛹 土蝶蛹 鼻涕蟲蛹**

附蝶。土蝶ふかくつア小似と  
故え。蝶蛹も引づけりかと

ちにくつ。鼻涕虫へもあとうる  
うの出とひ。托胎虫。陵蟲

ひきとも文字の通ア

**蝶蛹** **夏雁鳥** **夏雁鳥** **附蝶蛹**

蝶蛹の羽來ふてちづれを香移行  
白き冠ふき小き

**鶴** **蝶蛹** **蝶蛹** **正字詳あくば**

種あう大きりのり頃よ  
鶴種あう大きりのり頃よ

**白き冠** **蝶蛹** **蝶蛹** **正字詳あくば**

赤頭と忌く淵明が文よ見す  
よのハ此冠赤一

**蝶蛹** **蝶蛹** **蝶蛹** **蝶蛹**

赤頭と忌く淵明が文よ見す  
其角

**鶴** **蝶蛹** **蝶蛹** **鶴飼**

鶴飼。夜川。漁人鶴ふ魚と  
取せ未咽よ下らざる時其の口と

せば則ち自ら出と鶴はひふ

され漁人の手みてみよとどき  
奥を吐く又妙う濃州岐阜

至て妙を得て漁人多一  
度十四奴を放つりのやう

**新古今** **前大僧正慈圓**

物飼ふぞやうとぞのやう

夏一 生類

夏一十五

夏  
牛糞

同

安蓮法師

うかひ取うち承すてこま極まれや  
絶へ生ゆくかくうゆのう事

夫木

光俊

ひ川み小夜よすすめゆじ桂人  
うよひよひまれ舟ふねごだいく  
捨遺愚草 雨後鶴川 定家

うかひ舟村承うけうごくよひよ  
ま見るの星ほしアラウタとあくまく

草根

遠近鶴川

慈鎮

宇治川うじせとれ是これ代本だいほんうくい  
あれもやうり様ようの一まく

やうく魚うおはうよひよ。さくぐ  
きき波なみ教おとす。波なみく。うく。魚うお  
よひよ。さくぐ

詞詞 夜川よ夜川よの無む。夜川よ。夜よ川よ。

あくまく魚うおはうよひよ。さくぐ  
の魚うお無む。魚うおはうよひよ。さくぐ

うよひよ。かづく鶴つるはよく。魚うおは  
魚うおよ。かづく鶴つるはよく。魚うおは

うよひよ。かづく鶴つるはよく。魚うおは

うよひよ。かづく鶴つるはよく。魚うおは

うよひよ。かづく鶴つるはよく。魚うおは

うよひよ。かづく鶴つるはよく。魚うおは

うよひよ。かづく鶴つるはよく。魚うおは

うよひよ。かづく鶴つるはよく。魚うおは

うよひよ。かづく鶴つるはよく。魚うおは

うよひよ。かづく鶴つるはよく。魚うおは

うよひよ。かづく鶴つるはよく。魚うおは

鮎あゆ (異名) 年魚。細鱗魚。銀口魚

夫木 (別名) 年魚。細鱗魚。銀口魚

衣笠内大臣

夏

生類

夏十六

詞 松浦川。宇治川。よりぬ川。  
夏門。さや門。さやき門。沢水

ひみ。あう。水車。さ。岸。

狂 まちの轉づ鮎や松浦と。或成  
衣の名。あるべく物よ鮎のを一品  
はくじ。いのせにけり。かくへ  
狂はくじ。いのせにけり。かくへ

生砂ともスモミラハモリ。満水  
食。食。日方。日方。喜生ト。食。食。  
秋。ハカヒ。ハカヒ。食。食。年魚。ふ

鮎

事故

鮎

國

日本紀神功皇后肥

鮎

前王島小河小鮎を

鉤。鉤。ハヤヅレ。しき物。えと。其所を  
梅豆羅国と。今松浦と。之謀。

水 鮸

子

水 鮸 潮。ひ。用。凹。畿

内。是。切流。一。漬。ふ。く。とも  
つ。即。水。そ。その事。す。

水 鮸

桶

水 鮸 つ。大坂。より。大和  
へ送る。小大和川を船。そ。曳。乃

水 鮸

子

水 鮸 が。この故。水。も。も。と。つ。う

干 鱻

干

干 鱻 ねど。と。ぬ。股。も  
四。す。と。せ。へ。と。い。よ。す

干 鱻

干

干 鱻 う。在。の。と。街。と。す。三

干 鱻

干

干 鱻 四。す。と。せ。へ。と。い。よ。す

鮎

鮎

鮎。鰆。鮓。とも。い。と。訓。セ

鮎

鮎

鮎。和州吉野鮎。是。と。鉤。瓶。鮎  
と。名。つ。く。城州宇治鮎。鮎。根

鮎

鮎

鮎。州福島の。小鮎。とも。い。と。ふ

鮎

鮎

鮎。和州今井の。鮎。越前

鮎

鮎

鮎。引田今庄の。鮎。これ等  
と。名。物。の。い。と。ふ

夏 雜

夏十七

蟹餻

鹽漬シロヘシ。或ハ酒又糟ヨモギ。漬シロヘシても可ハシメテ。

鹽鳥賊

或ハ酒又糟ヨモギ。漬シロヘシても可ハシメテ。

夏雜

此部ハ夏三ヶ月の種々の雜事ハシメテ。

短夜

明安夜。新古今或ハ親風ハシメテ。

窓

窓ハシメテ。明安二月の行ハシメテ。

蚊屋賣

俳。蚊ハシメテ。明安二月の行ハシメテ。

扇

能。扇ハシメテ。明安二月の行ハシメテ。

風招涼

詞。風ハシメテ。明安二月の行ハシメテ。

風

風。風ハシメテ。明安二月の行ハシメテ。

風

風。風ハシメテ。明安二月の行ハシメテ。

扇五字對句

詩。扇五字對句。

掩笑頌歌扇

掩笑頌歌扇。中散詩傳ハシメテ。

迎歌

迎歌。將軍扇賣書。

詩

全七字對句

詩健

**夏** 雜

**流風** 入坐 飄歌扇

**扇影飄**

**瀑水** 當階 滅舞衣

**逐酒來**

**均教** 時交合 歡扇

**共徘徊**

**追杯** 卜舉石榴裙

**涼風前**

**伏翼** 扇拂與蝙蝠

**逐酒來**

**草子** 小詩詠清少納言の枕

**共徘徊**

**小詩** 舊作清少納言の枕

**涼風前**

**團扇** 寄居の都

**逐酒來**

**團扇復團扇** 奉君清暑殿

**涼風前**

**殿二アヒ秋風吹庭樹** 從此

**逐酒來**

**不相見** 二アヒ秋上有乘

**涼風前**

**寫女蒼々華蟲編** 明年入懷

**逐酒來**

**袖別是** 机中練

**逐酒來**

**編笠** 莹艸を以てこすとつる

**逐酒來**

**結夏** 夏籬

**逐酒來**

**日傘** ひさきより雨傘の如く油

**逐酒來**

**夏断** 夏經 夏花 夏書

**逐酒來**

**逐酒來**

**夏断** 夏經 夏花 夏書

**逐酒來**

**逐酒來**

**逐酒來**

**逐酒來**

**逐酒來**

夏一 雜

夏トトロ

も夏トトロあり。内の行狀トトロ、夏トトロり内トトロ、佛トトロ花トトロを供トトロ、無縁のトトロ靈トトロ面トトロ向トトロ。又聖經の類トトロを書寫トトロ。俗家トトロ夏トトロ断トトロとぞ、房車酒肉トトロ等慎トトロむ者トトロあり。△安居トトロといひ、形心靜攝トトロ成安トトロといひ、要期此トトロより住トトロまうと居トトロ。新麥トトロ早トトロきよりハ三月比至トトロ。切麥トトロ「冷麥トトロ。天寒トトロの時トトロハ溫飴トトロをよりらひ。天熱トトロの節トトロハ冷麥トトロ或トトロりも云制トトロへあり。」トトロ寒トトロ温トトロの違トトロひトトロにトトロ。煮トトロ冷トトロ「冷汁トトロ。夏トトロハ食トトロ物又ハ汁トトロも器トトロへ食トトロ井水トトロふはめトトロれたり。ひトトロたるとも紀食之トトロにトトロ。も云麥飯トトロ狂トトロトトロ守トトロて居トトロ位トトロにトトロ而トトロてトトロ食トトロ之トトロにトトロ。也トトロ麦彩トトロ、麥粉トトロ豆トトロ也トトロ耶トトロ。土

木布トトロ 布トトロのトトロもトトロテトトロテトトロする  
單物トトロ、汗衫トトロ 官家の下着トトロとトトロア  
汗巾トトロ △汗拭トトロ、汗手拭トトロ 汗トトロをぬくふ手巾トトロなう。又  
夏トトロの用具トトロ。  
△△トトロおふまトトロ溼トトロもトトロけトトロ汗拭トトロ、貞九  
必用トトロ 此部トトロハ夏トトロ三月の入用トトロつ事トトロて数多トトロあつむ  
夏養生トトロ 素問云夏トトロ三月トトロ、蕃秀トトロと云天地の氣交トトロ、萬物繁茂トトロと夜トトロ明トトロ早トトロ小起志トトロ。而トトロて怒トトロ事トトロ多く、英花トトロと秀トトロかくトトロ天氣トトロ。そぞれに事トトロ得トトロ、むこれ夏トトロ氣トトロの應トトロ、處トトロうせ養生トトロの道トトロ。○木トトロとの水トトロ洗浴トトロもトトロ事トトロと云トトロ。おづき石トトロの上トトロ坐トトロ。眞トトロす熱トトロい聲トトロ

夏

必用

夏七

生ト冷されハ神ニ生ミ○風ニ當西テ  
卧ニシカレ風旗寺の病ニ生ミ

夏天氣

日錦黃毛ツハ雨多々ハ季

夏風

月暁暁あらハ多々ハ風ニ吉

土ニ生ミテ土中央の位方角はと  
ノトキ千支より成未の方ニキ俗不

五月風西とニ西風ニ雨ニするノハ時

節の火氣より火生土の土の方ニ陞テ  
吹風ナリとハヘ○東風ニ常ニ雨ニム

ヨリノ木ノ入梅の中ニ土用ニハ雨ニキビ  
然ニキタリ吹て風西ニ雨ニ

スカラ○南風ニ時ニ火ニ對する故更  
夏雲

風の方位ニもとがひて  
暮ニ西の方赤く一トテ

夏霞

南ニ廻きハ日和ト一秋

ホリアリテハ西トニ北トマリル

